

東芝照明プレジジョン(株)福島事業所 サイトレポート情報

所在地	: 福島県福島市土船字町田1番地1
敷地面積	: 20,634m ² 、建家面積: 10,001m ² 、緑化率 24.3%
設立	: 1934年4月、従業員: 85人(2015年3月現在)
主要製品	: 各種精密樹脂部品(照明用、車載用)、照明用部品
ISO14001認証取得	: 1999年5月、最新更新年月: 2015年3月 (ISO認定番号: E1102)



ごあいさつ

東芝照明プレジジョン(株)福島事業所は、吾妻連峰の麓に位置しており水と山と緑豊かな自然環境に恵まれた立地条件の中で事業を展開しています。事業所では、各種精密樹脂部品(照明用・車載用)、照明用部品の製造を行っており、環境保全活動にも従業員一丸となって取り組んでいます。



事業促進部長 氏家一教

2014年度の環境の主な取組み

☆ISO14001環境マネジメントシステム

1999年5月に認証取得、2015年2月に更新審査を実施

☆環境保全設備の改善と管理の向上

射出成形機を油圧式から電動式に更新(省電力化)、製造設備改造による製品歩留向上など

☆環境保全体制の充実

法令、条例の順守、現場管理の強化。

☆CO₂排出量の削減

CO₂排出量生産高原単位を2014年度の目標(110t-CO₂/億円)に対して実績(107t-CO₂/億円)

☆廃棄物ゼロエミッションの継続

廃棄物総発生量原単位を2013年度の目標(6.9t/億円)に対して実績(7.6t/億円)

最終処分率 0.11%

☆化学物質排出量の削減

印刷溶剤使用量を年1%削減(印刷歩留の向上施策)

☆全員参加・啓蒙活動の展開

地域の清掃活動、安全環境ニュースによる啓蒙活動

製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介



各種樹脂成形部品
(高輝度誘導灯他)



各種樹脂成形部品
(車載用・蛍光灯用)



照明用部品
(直管蛍光灯用)

東芝照明プレジジョン(株) 環境方針

東芝照明プレジジョン(株)は、福島県福島市に福島事業所、新潟県長岡市に新潟事業所、神奈川県川崎市に川崎事務所を置き、事業所及び工場は阿武隈川、信濃川の清流に隣接し、水と山と緑豊かな自然環境に恵まれた場所に立地している。一方、川崎事務所は東京都との境を流れる多摩川の恵みを受けた、「世界的な先端産業都市」で営業活動を行なっている。

「かけがえのない地球」環境を健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、事業を展開する我々の基本責務」との認識に立って、東芝グループの環境ビジョンのもと、豊かな価値の創造と地球との共生を図ることで持続可能な社会へ貢献します。

1. 環境保全の取組みを会社経営の最重要課題の一つとして位置付け、経済と調和させた環境活動を推進します。
2. 事業活動、製品・サービスに関わる環境側面について、生物多様性を含む環境影響を評価し、環境汚染の予防に努めます。
3. ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステムを構築し、積極的な環境施策の展開により、環境経営の継続的な改善を図ります。
4. 法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、必要により自主基準を制定し、環境活動に取組みます。
5. 当社製品は開発設計の段階より参画し、製品を構成する個々部品の省資源・リサイクル性・省エネルギーなどを考慮し、環境への配慮を部品自体に付加して提供する。
6. 当社が行なう事業活動が環境に与える影響の中で、特に以下の項目について、優先的に環境保全活動を推進する。
 - (1) 地球温暖化防止のために、製造設備の運転管理の徹底、設備改善などにより、電気及び燃料について省エネルギーを推進する。
 - (2) 水質・騒音などに関わる施設の管理の徹底と設備の改善を行ない、環境に与える影響を最小にすると共に、事故の予防に努め、その訓練を行なう。
 - (3) 限りある天然資源を守るために、樹脂・金属などの廃棄物の分別の徹底を図り、産業廃棄物の削減化を推進し、「ゼロエミッション」の継続及び循環型社会に貢献する。
 - (4) 環境に負荷を与える化学物質は、徹底した管理を行なうと共に、代替への転換、削減、回収、などを行なう。
7. 取引先への環境保全の要請を行うと共に、地域会社への配慮を通して、取引先や地域社会との協調・連帯を図る。
8. 従業員の環境意識をより高め、全員で取り組みます。またグローバル企業として積極的な情報開示とコミュニケーションを行い、東芝グループと一体となった環境活動を推進します。

2015年 4月1日

東芝照明プレジジョン株式会社

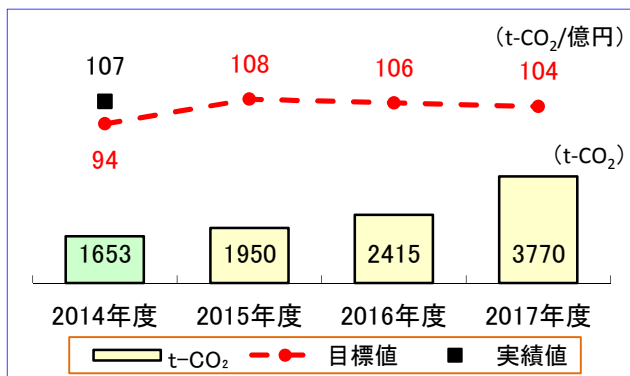
岩田 進一

環境目的・目標

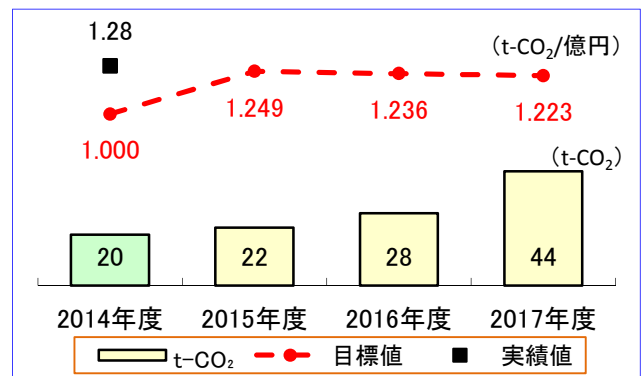
取組み項目		2015年度	2016年度	2017年度
地球温暖化防止	エネ起源CO ₂ 総排出量原単位の改善(t-CO ₂ /億円)	108	106	104
	物流CO ₂ 総排出量原単位の改善(t-CO ₂ /億円)	1.249	1.236	1.223
資源有効活用	廃棄物総発生量原単位の改善(t/億円)	6.32	6.19	6.06
	最終処分率の管理(%)	<0.35	<0.35	<0.35
	水受入量原単位の改善(千m ³ /億円)	0.137	0.135	0.134
化学物質管理	取扱量原単位の改善(t/億円)	0.0315	0.0312	0.0309
生物多様性	生物多様性の推進	蝶の呼び込み	パフォーマンスの向上	パフォーマンスの向上

環境負荷データ

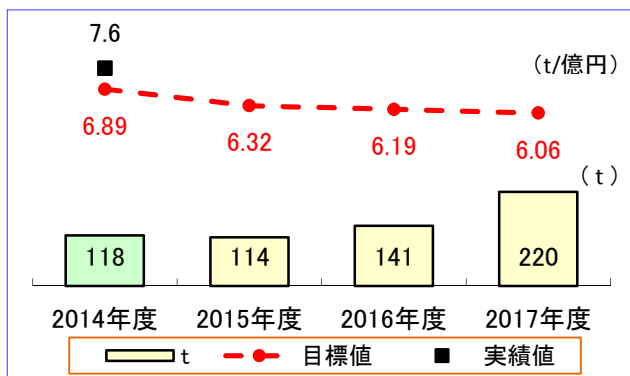
エネ起源CO₂



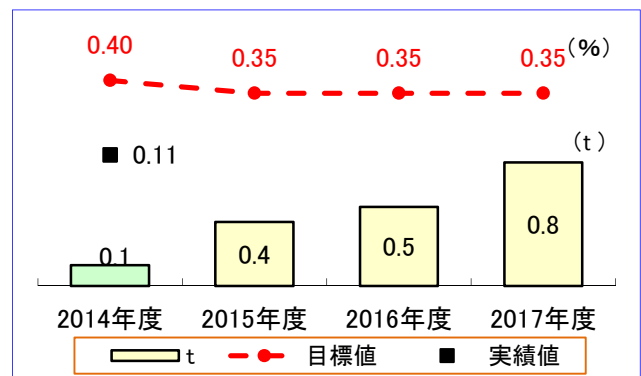
物流CO₂



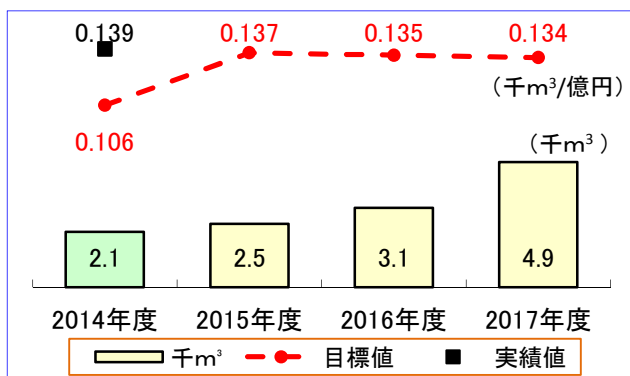
廃棄物総発生量



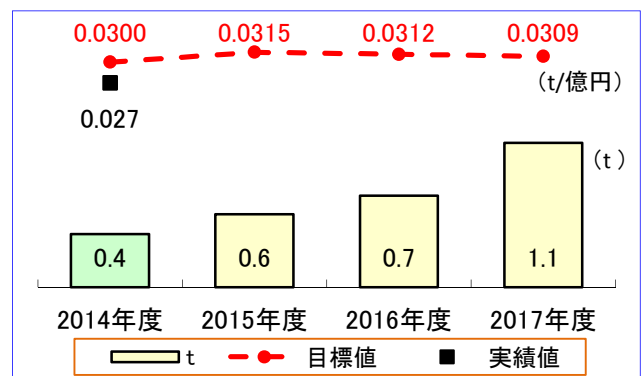
最終処分率



水受入量



化学物質取扱量



コミュニケーションの紹介

<「Earth Hour(アースアワー)2015」への参画>

3月28日のアースアワーに合わせて、事業所の看板の消灯を実施しました。



<事業所周辺の清掃活動>

①事業所周辺の清掃活動

当事業所では、毎年、環境月間に合わせ事業所周辺の清掃活動を実施しています。今後も地域活動の一環として、継続していく予定です。

(実施概要)

- ・日時：2015年5月20日
- ・参加人数：50人
- ・その他（20kgの廃棄物を回収）



<東芝150万本の森づくり>

福島県内のグループ会社4社と協力して、福島市佐原地区にて植林活動を実施しています。

植林活動は、2010年から5年間実施する計画であり、今回で5回目となります。

(実施概要)

- ・日時：2014年10月18日
- ・参加人数：40人（全体では200人）
- ・その他（スギ2000本の植林を実施）



生物多様性の取組み

指標種(保護種)の選定

指標生物	指標生物の希少性
ナミアゲハ	—
ヒメギフチョウ	絶滅危惧II類

ビオトープの概要



事業所の立地環境

- ・阿武隈川水系の須川流域に立地。
- ・敷地面積：20,634m²、緑化率：24.3%。
- ・須川と荒川に囲まれた平地であり水辺は豊富。
- ・周囲にはあづま総合運動公園などのまとまった緑地も多い。
- ・中小の寺社が散在しており在来の飛来生物も多いと推測。

< 蝶の生態系ネットワーク構築 >

- ・緑地の一角にアゲハ幼虫の避難場所を設けて工場を中心としたアゲハチョウ生態系ネットワーク構築
- ・アゲハチョウの他に、地域固有の蝶の呼び込み
⇒須川、荒川、貴船神社、西工業第2公園など周辺に生息する蝶を狙って食草を置く (ユズ、サンショウ)



ナミアゲハ



ヒメギフチョウ



サンショウ



ユズ